

保護者による評価

A 環境・体制設備

- ・活動スペースが狭い
- ・職員体制は充分である
- ・バリアフリー化については玄関のみ
- ・専門性の高い職員が配置された

B 適切な支援の提供

- ・ひとりひとりに合わせた教材を丁寧に用意され丁寧に支援されている。
- ・地域の障害のない子どもたちとの交流する機会はない。今年度も感染防止のため外部と交流はなし。
- ・長期休暇の企画が自立のに向けた内容で楽しく学習できる

C 保護者への説明責任等

- ・保護者への説明は面談時やお便りにて今後の支援、運営について説明された。

D 非常時の対応

- ・避難訓練が実施前に予告あり。
- ・感染対策マニュアルは長期化に合わせて改訂版を作成し配布されている。

事業所による自己評価

A 業務改善

- ・活動スペースはニーズに合わせて適切な環境整備していきたい。
- ・子どもたちが安全に過ごせる職員体制を整える。送迎時においても安全に送迎ができるよう職員配置を行っている。
- ・職員の専門性を高め、支援の質にこだわって活動、支援を行っている。

B 関係機関や保護者との連携

- ・学校、関係機関（児相・医療機関）と連携し、療育内容の共有しひとりひとりの適切な支援へ繋げている。保護者からの相談に対して情報提供ができるよう進学先や関係機関との連携を積極的に行った。私学、公立ともに連携を行っている。必要に応じて医療機関の紹介を行っている。

C 保護者への説明責任等

- ・現状報告及び今後の運営支援について保護者会はできないため必要に応じて個別（面談時）に対応している。

D 非常時の対応

- ・半年に1回指定された広域避難場所へ活動中に避難訓練を取り入れている。抜き打ち訓練を実施。
- ・防災センターにて、災害時の対応を学習している。
- ・感染対策はマニュアル化、記録を徹底し現場対応ともに徹底している

事業所内での分析

- ・活動スペースは京都市より別室利用を認められた。より良い療育環境を提供できるよう整えていきたい。
- ・地域交流する機会がない。今年度は感染防止を優先し外部との交流を控えた。ひとりひとりの支援に合わせて教材を用意している。
- ・限られた時間内での学習支援のため時間配分は要検討。長期休暇に学習をテーマとした特別企画を日替わりで実施している。
- ・専門的な職員を配置し職員の専門分野を生かした活動を続けている。支援の質の向上のため研修や勉強会の機会を設け支援の質にこだわった活動ができるように取り組む。
- ・特別支援学校教諭を配置することで、支援の質が高まり職員が常に学習できる環境になった。

事業所の改善への取り組み

- ・コロナ感染防止のため、本年度も他施設や児童館などの交流はできなかった。今後も多人数の交流は難しいが、他事業所へオンラインで学校紹介を行い好評だったため続けていく。
- ・長期休暇など学休日に避難場所を確認している。防災についての認識が薄いため抜き打ちでの本番さながらの訓練実施により職員と利用者を安全に誘導することを強化していく。
- ・感染防止のため本年度も保護者会を行うことはできなかった。
- ・ホームページ、SNS など、全体に発信する媒体はあるが運用はできていない。保護者の要望が多いため検討の余地あり。現状は毎月の活動案内になっている。